



ちばりは ニュース

2013年3月 発行 第12号
千葉県千葉リハビリテーションセンター 広報誌



〒266-0005
千葉市緑区誉田町1-45-2
TEL 043-291-1831 FAX 043-291-1857
ホームページアドレス
<http://www.chiba-reha.jp/>

千葉県千葉リハビリテーションセンターの理念と基本方針

理念

「誰もが街で暮らすために」

Everybody will be in own town

—私たちは障害児・者の自立と社会参加に向けて良質な医療と福祉を提供します—

基本方針

- 利用者の意思と個性を尊重し、専門職の協働による包括的リハビリテーションを実践します。
- 日々の研鑽により自らの人間性と専門性の向上を図り、安全で質の高いサービスを約束します。
- 地域の各機関との連携を図り支援し、また研究・開発や専門職育成に努めます。

栄養部とNST（栄養サポートチーム）の活動

栄養部

栄養部では、患者・利用者様に1日平均620～640食の給食を提供しています。様々な年齢の様々な状態の方々に対して、一般食のほか、30～40種類の特別食（食数にして30%前後）を作っています。また、入院・外来の栄養指導を年間で計150件あまり行っています。



栄養指導風景

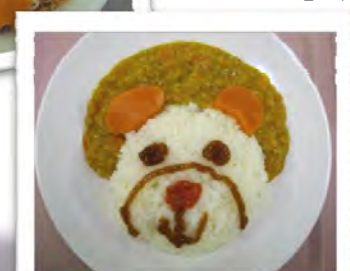
現在、センターの管理栄養士は3名で、委託業者（ニッコクトラスト）の栄養士・調理師と共に業務を行っています。

特に注意している点は、

- ①安心・安全な食事の提供
- ②家庭的な味の提供、お子様への様々な味の経験
- ③行事食やお楽しみ給食を取り入れ、食の楽しみの提供などです。



こどもの日
メニュー
「くまさん
カレー」 ↓



七夕メニュー ↑
「天の川ちらし寿司」



幕の内弁当メニュー

お正月メニュー
「おせち」



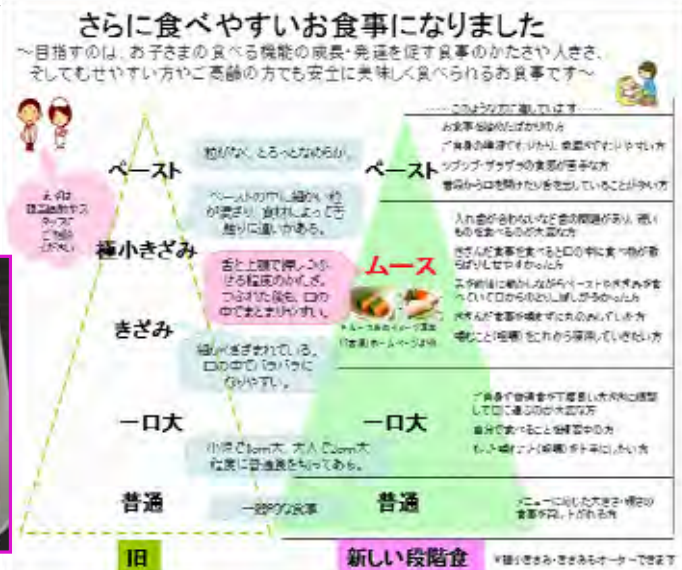
「おやつバイキング」
愛育園クリスマス会

P2に続く

食形態改善プロジェクトにおいて、ムース食の研究を行い、食べやすくおいしいムース食を数名のお子様提供させていただいており、今後も改良を続けていく予定です。

「ムース食」

多職種で検討を重ねて出来たムース食。現在も試行錯誤を繰り返しながら進化中



NST (栄養サポートチーム)

平成21年、医師・栄養士・薬剤師・看護師・臨床検査技師の多職種協働での栄養管理のため、NSTが立ち上げられました。入院・入所時、栄養管理計画書を多職種で協働して作成し、毎月のNST会議では、病棟の担当看護師から栄養状態に問題がある症例をあげてもらい、検討した改善案を病棟に持ち帰り主治医と再検討して栄養管理に役立てています。

臨床の現場では、侵襲の高い治療や手術ばかりでなく、普通の内科的治療やリハビリテーションにおいても、より良好な結果を得るためには、栄養状態の改善が欠かせません。センターでは、入院・入所時からの栄養状態の評価と積極的な栄養療法を行って、患者・利用者様の予後改善と健康の向上に努めています。

4月からは、本格的にNST回診を開始する予定で準備を進めています。現在チームメンバー2名が、NST専門療法士の資格獲得をめざし勉強中です。



NST回診風景

総合療育センター 児童発達支援センター

平成24年4月、千葉リハ小児部門として再編された総合療育センター児童発達支援センターは、おかげさまで1周年を迎えます。平成25年度はスタッフを強化し、医療・福祉・教育・行政機関等と連携しながら療育サービスを包括的に提供し、地域の療育体制づくりに積極的に取り組んでいきたいと思ひます。



相談事業

平成24年度児童福祉法の改正にともない、障害児への相談支援が強化されることになりました。

千葉リハ児童発達支援センターも、外来や長期入園、短期入所等についてのご相談だけでなく、地域に出向いて在宅生活をサポートできるよう、相談支援体制を強化しました。

具体的には、障害児相談支援事業所としての指定をとり、在宅の重症心身障害児者や、肢体不自由児等に対して障害児支援利用計画書の作成を開始しました。相談支援専門員がご自宅や地域機関を訪問し、ご本人やご家族の意向や、困っていることなどを伺いながら、居宅介護事業所や通所事業所、訪問看護ステーション等と連携を図り、十分な在宅サービスが提供されるための支援を行っています。

通園事業



「千葉リハに通園を！」 長い間ご要望いただきオープンした成人通園『えぶり』、未就学児通園『えぶりキッズ』も平成25年4月で満1歳になります。

どんなに障害が重くても、医療的ケアが濃厚でも、元気でわくわく心地よいと感じられるひとときを提供できるよう保育士・看護師・介護福祉士・理学療法士・作業療法士・心理発達治療士・社会福祉士そして医師が、千葉リハならではの多職種連携により、療育のノウハウを結集させ、この1年間、1日1日の支援を大切に積み上げてきました。

成人11名、未就学児27名とご家族が利用されましたが、利用児者のみなさまからは、たくさんの素敵な笑顔と、たくさんの表出がみられました。

そして、ご家族の皆さまからは
 「何年か振りに笑顔をみる事ができた」
 「お客様ではなく、主役となって療育をうける事ができた」
 「自分も、子どもも居場所ができた」
 等の声が聞かれました。

平成25年度は、新たに10名の新規利用児者を迎え、ミュージックケアや、親子でくつろげる憩いのスペースづくり等、バージョンアップし、少しでも皆さんに楽しんでいただけるようスタッフ一同やる気満々です。

保育所等訪問支援

平成25年4月から、保育所等訪問支援事業を開始します。

保育所や小学校等地域の支援機関をご利用になっているお子さんに対し、児童発達支援センターのスタッフが施設訪問し、ご本人が集団生活に適應するための専門的な支援を行います。

ご報告

センター研修プログラム発表が、県立病院学術集会「最優秀賞」を受賞しました！

人材育成部は平成22年度から、新しい部署として立ち上がりました。

当センターのような中規模病院・福祉施設でこのような「人材育成」を役割とする部署のモデルは見当たらず、総務室や教育推進会議と協働・連動して手探りで活動してきましたので、今回の受賞は部員にとって大きな励みになりました。さらに、センター職員表彰もいただき、ダブルの喜びです。

平成22年の教育推進会議で人材育成上の課題を絞り込み、戦略を考えるためにSWOT分析を行い、様々な問題があがりましたが、30年を経て膠着化した組織文化の改善や管理者育成が急務であることを示していました。これを受けて、人材育成上の課題として「管理者・次世代リーダー育成」、「職種ごとの教育システムの整備」および「職種間コミュニケーションを含めた風土改善」に対して、3年間かけて研修・ワークショップの開催などの学習支援を通して取り組んできました。

学術集会では主に多職種管理者と新任職員研修プログラムについて報告させていただきました。いずれも、多職種合同で同じ課題に対して一緒に継続的に取り組むもので、会場からは、研修参加率をあげるためにどのような工夫があるかなどの質問をいただきました。

中堅層の育成や教育効果評価は今後の課題ですが、人材育成部のモットー「利用者のために、そして自分自身のために、学ぶことを支援します」を大切に、「新生」人材育成部もより一層職場が元気になれるよう活動していきます。

文責：荒木暁子（人材育成部長/写真左手前）



センター案内図



車のご利用

- ・千葉東金道路 大宮インターから約10分
- ・京葉道路 松ヶ丘インターから約25分

電車・路線バスのご利用

- ・JR千葉駅東口から千葉中央バスのりば2「千葉リハビリセンター」行 約40分
- ・JR外房線鎌取駅北口から千葉中央バスのりば2「千葉リハビリセンター」行 約9分

無料送迎バスのご案内

(センター JR 鎌取駅 循環運行)

JR 鎌取駅北口発 千葉リハビリテーションセンター行き 千葉リハビリテーションセンター発 JR 鎌取駅北口行き

時	平日	土曜日
8	10 30 50	30 50
9	10 30 50	10 30
10	10 30 50	20 40
11	10 30 50	00 20
12	10 30 50	
13	10 30 50	
14	10 30 50	
15	10 30 50	
16	10 30 50	
17	10 40	

時	平日	土曜日
8	03 23 43	23 43
9	03 23 43	03 23
10	03 23 43	13 33 53
11	03 23 43	13
12	03 23 43	
13	03 23 43	
14	03 23 43	
15	03 23 43	
16	03 23 43	
17	03 33	

センター送迎バス発着場所について

鎌取駅発・・・鎌取駅北口ロータリー付近
(専用のバス停はございません)

センター発・・・センター正面玄関前

車椅子ご利用の乗車定員について

中型バス(黄色)・・・2名

マイクロバス(水色)・・・3名

日曜・休日は運休となります。

道路混雑等により遅延する場合があります。